

学校だより 令和5年5月号



# 文蔵小通信



さいたま市立文蔵小学校

〒336-0025 さいたま市南区文蔵5-16-29

TEL 863-0721

FAX 836-1583



【文蔵小ホームページ】

## 加点主義と減点主義

校長 渡邊 勝利

早いもので、入学式から3週間経ちました。1年生も給食が始まり、少しずつ学校生活にも慣れてきたようです。また、懇談会においては、多くの保護者の皆様に御来校いただき、ありがとうございました。新型コロナウイルス感染症拡大のため、様々な教育活動が制限されてきましたが、令和5年度は、換気や人との距離の確保等の感染症対策をしながら、可能な限り子どもの学びを止めず、教育活動を実施してまいります。

ここで、4月の子どもたちの様子を一部紹介します。

登校の様子。元気なあいさつができています。「自分から」できるよう指導を続けていきます。

1年生。学校探検、給食の準備、下校の仕方等、学校生活に慣れるための準備をしています。

2年生。クラスの学級目標について、自分の考えをもって真剣に話し合っていました。

3年生。かけ算の色々な解き方について、タブレットを使って話し合っていました。

4年生。漢字を一画ずつ丁寧に学習しています。ノートの使い方を確認していました。

5年生。社会の学習では、周辺国との間には領土問題が多くあることに驚いていました。

6年生。素敵だと思う物語の情景や春についてイメージし、話し合っていました。

5組。離任式に向けて、お別れした先生方に手紙を一生懸命書いていました。

私は毎日可能な限り、各教室の授業や子どもたちの様子を見ることにしています。そこで多くの教室で共通しているあることに気がきました。

それは、「〇〇さん、姿勢がいいね。」「すごい、手をしっかり挙げているね。」等の肯定的な声掛けが多いということです。全てのクラスで聞くことができました。各クラスとも、姿勢が良く、手をしっかり挙げている子どもばかりでしょうか。課題もまだまだあります。しかし多くの場面で先生方は、意図的に児童の肯定的な側面に注目して、共感的に子どもたちに接していました。いわゆる「加点主義」です。

これと逆なのが、「〇〇さん、もっと背筋を伸ばして。」「もっとしっかり手を挙げなさい。」等の否定的な声掛けです。教師や親は、自分の知識や経験から判断し、減点してみる傾向があります。子どもが努力しても、「当たり前」「もっと努力できるはず」と思ってしまいます。いわゆる「減点主義」になりがちです。

例えば、子どもがテストで80点を取った場合はどうでしょうか。「頑張ったね。前よりも10点上がったね。～するともっと良くなるよ。」が加点主義。「何で～を間違ったの。この前やったところでしょ。」が減点主義。同じ80点でも、子どもの受ける印象は違います。

子どもの間違った行動や考え方には、毅然とした指導が必要です。徹底的に指導することもあります。しかし、子どもの良いところ、頑張った点を積極的に探し、肯定的な言葉がけをすることがこの時期の子どもたちには必要です。自信が付き、何事にもチャレンジする勇気もてます。そのような、肯定的な言葉に満ちた学校環境の構築を目指し、今後も学校運営を進めてまいります。

これから、ゴールデンウィークを迎えます。慣れない環境で普段より緊張が続いたことと思います。連休を上手に活用して、元気に5月を過ごせるようにしてほしいと願います。